

エンジンカッター

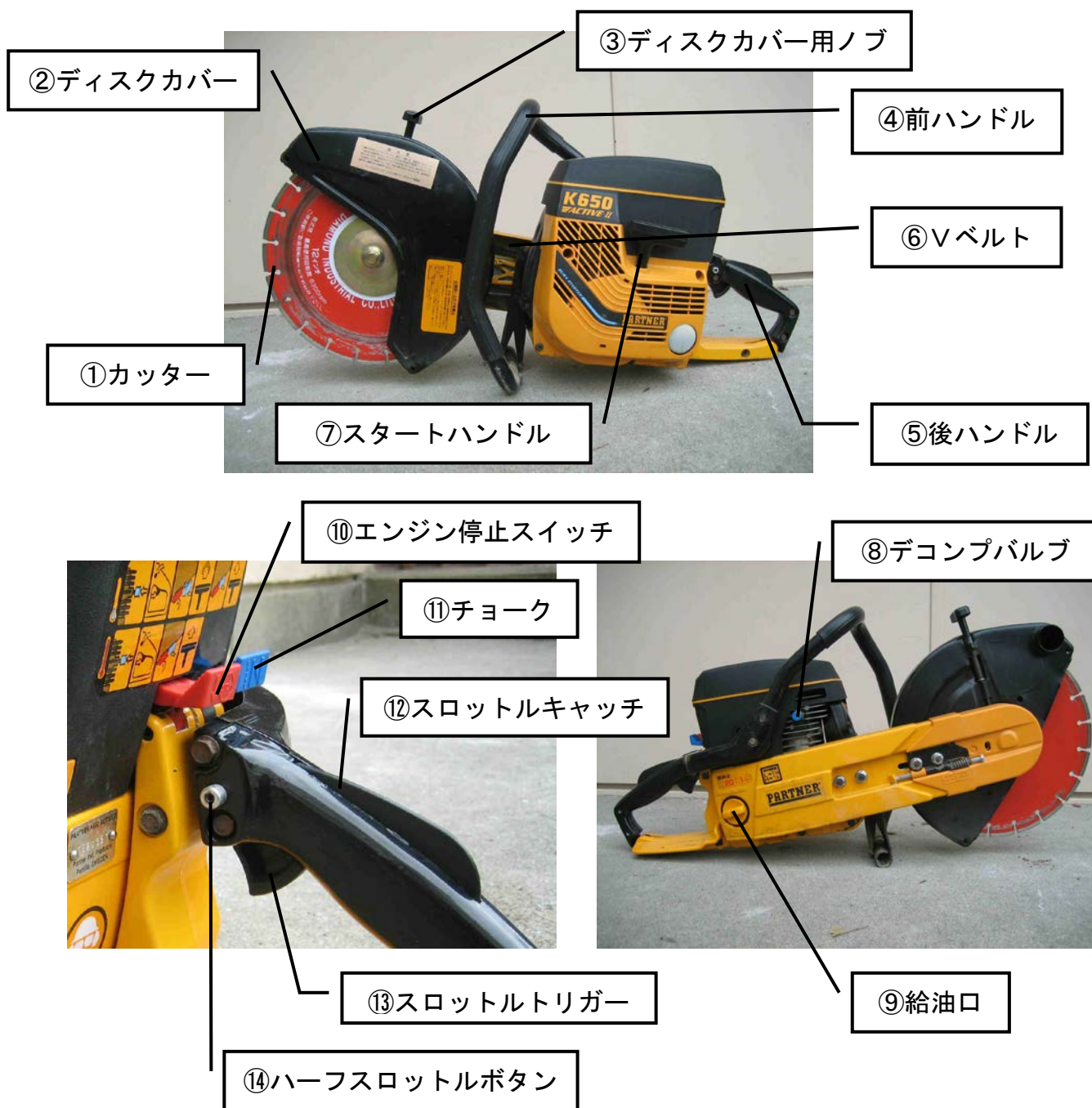
横浜市では2種類のエンジンカッターを備えていますが、特に性能・操作方法の違いはありません。

エンジンカッターは、高速回転する刃物でコンクリート、鋼材などを切断する機械ですので、誤った使い方をすると大変危険です。

正しい使い方を覚え、安全に使いましょう。

種類	K650 アクティブ (パートナー社製)	EC757 (新ダイワ社製)
本体色	黄	赤
乾燥重量	9.3kg	11.0kg
エンジン形式	2サイクル空冷ガソリンエンジン	
排気量	約72CC	
使用燃料	混合燃料 無鉛ガソリン+2サイクル専用オイル=20:1 (25:1も可)	
タンク容量	約0.76リットル	
カッター	外径約300mm	
最高周速	約4800m/min	
備蓄数量	2台	

1 部品名称



番号	名称	番号	名称	番号	名称
①	カッター	⑥	Vベルト	⑪	チョーク
②	ディスクカバー	⑦	スタートハンドル	⑫	スロットルキャッチ
③	ディスクカバー用ノブ	⑧	デコンプバルブ	⑬	スロットルトリガー
④	前ハンドル	⑨	給油口	⑭	ハーフスロットルボタン
⑤	後ハンドル	⑩	エンジン停止スイッチ		

2 使用にあたっての注意点

☆ エンジンカッターで金属などを切断する際は火花が散るため、危険防止用の保護具を使用し周囲に可燃物がないか確認する。

☆ 燃料の混合ガソリン及びその気化ガスは、引火性が高いので取扱いに注意する。

- 1 燃料がエンジンカッター本体から漏れていないことを確認する。
- 2 給油時などに燃料を周りにこぼした場合は必ず拭き取る。
- 3 操作する人（以下「オペレーター」という。）は作業中、カッターの前後方向の延長線上に足等を置かないようにする。
- 4 操作中はカッターの前後方向に人を近づけない。
- 5 操作中に異常を感じた場合は直ちに操作を中止する。
- 6 換気の悪い場所では使用しない。
- 7 本機を移動する場合は必ずエンジンを停止してから行なう。
- 8 身支度は危険防止のため、ヘルメット、防塵めがね、滑りにくい手袋（革手袋など）、肌を露出しない服装（燃えにくいもの）、安全な靴を装着すること。



3 使用方法

【安全確認】

手順1 「①カッター」がしっかり締まっていることを確認する。



締め付けがゆるい状態でカッターを回転させると、ディスクが勢いよく飛び出すことがあります。ディスクが人体に当たった場合、大怪我や人命に重大な影響を及ぼす恐れがあるため、必ずエンジンカッターの前後方向に人が立っていないことを確認してから作業を開始して下さい。

手順2 「②ディスクカバー」の角度を調整する。



エンジンカッターで金属などを切断する際は火花が散るため、カバーを調整し自分に火花がかからないようにする。

手順3 「⑥Vベルト」にたわみがないことを確認する。



ベルトの中間部分を指で押したときに1.5cm以上たわまないことを確認する。

手順4 「⑦スタートハンドル」を引きスタートロープに著しい摩耗や損傷がないか確認する。

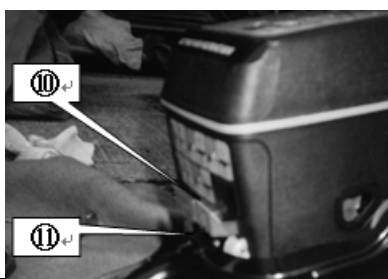
【エンジンの始動】

手順1 「⑨給油口」をはずし、混合燃料を入れる。



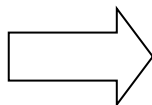
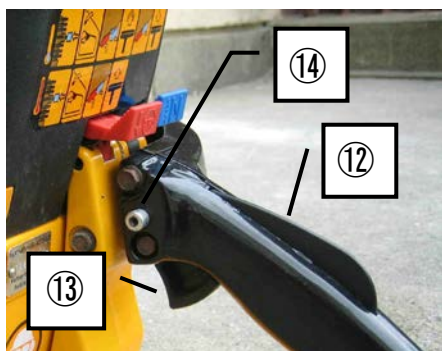
燃料は、市販されている混合燃料
無鉛ガソリン+2サイクル専用オイル=20：1を
使用します。(25：1も可)

手順2 「⑩エンジン停止スイッチ」が「ON」(上に上がった状態)に
なっていることを確認し、「⑪チョーク」を引く。



何度か始動させ、エンジンが十分温まっている
場合、チョークを引く必要はありません。

手順3 「⑫スロットルキャッチ」を押しながら「⑬スロットルトリガー」
を握り、次に「⑭ハーフスロットルボタン」を押し込んで手を離す。

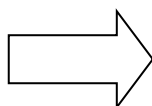


手順4 「⑧デコンプバルブ」を押し込む。



デコンプバルブとは：
エンジンシリンダー内の圧力が高いと始動に力が
必要であるため、デコンプバルブを押し入れる
ことにより圧力を下げ始動し易くする。

手順5 左手で「④前ハンドル」の中心を握り、「⑤後ハンドル」下部を右足で踏んで固定し、右手で「⑦スタートハンドル」を握り、後方を確認し、勢いよく引く。



手順6 初爆（ボンという音がする）が起きたら、「⑧デコンプバルブ」を再度押し込み（デコンプバルブは初爆時に元に戻ります）、「⑪チョーク」を戻す。

手順7 **手順5**と同じ要領で、「⑦スタートハンドル」を再度、勢いよく引く。

手順8 エンジンが始動したら「⑦スタートハンドル」を握ったまま、自動巻戻しの速度に合わせてゆっくり戻す。

手順9 「⑬スロットルトリガー」を引いて、ハーフスロットルを解除して、エンジンの動作（回転）に異常がないか確認する。トリガーから指を離し、カッターの回転が止まるのを待つ。

【切断】

手順 1 足場がしっかりしている平らな場所に立ち、エンジンカッター本体を、左手で「④前ハンドル」を、右手で「⑤後ハンドル」を確実に持つ。必ず両手で使用する。

手順 2 「①カッター」を切断しようとする面に直角になるように当てる。

切込みを付けたあとは、まっすぐに切断していく。



切断時はスロットルトリガーを強く（全開）握り、エンジンの回転数を最速にする。切断中は回転を緩めない。

カッターを斜めにあてるとカッターに負担がかかり、カッターの刃が欠け、飛び散る恐れがあります。また、切断の途中で回転を止めると、カッターがひっかかり、抜けなくなることがあります。

手順 3 切断後、エンジンカッターを持ち上げ、「⑬スロットルトリガー」から指を離す。「①カッター」の回転が止まるのを待つ。

【エンジンの停止】

手順 1 エンジンカッターを「⑤後ハンドル」の下の部分から先に降ろす。

また、「①カッター」が地面につかないようにする。

「⑦スタートハンドル」を軽く引き、エンジンが完全に停止するまで、「⑩エンジン停止スイッチ」を下に押し続ける。



スタートハンドルを引かずにエンジンを停止させた場合は、自動巻戻しの力によりスタートハンドルの先にあるスタートロープが切れる恐れがあります。必ず、スタートハンドルを軽く引いた状態で、エンジンを停止させてください。

(スタートハンドルを左手で引き、その手で前ハンドルを持つと安定した体勢でエンジンを停止できます。)

手順 2 エンジンが停止したら、「⑦スタートハンドル」をゆっくり元に戻す。

4 収納保管

手順 1 「⑨給油口」から余った燃料を取り出す。



燃料を入れたままで数ヶ月使用しないと、燃料が固形化しエンジンがかからなくなることがあります。

手順 2 エンジンを始動し、本体に残っている燃料がなくなるまで運転する。

手順 3 エンジンが完全に冷えてから収納する。

廃油の処理

エンジンカッター等を使用し、取り出した燃料を地面や排水溝などに処分することは廃棄物処理法で禁止されています。

ガソリンスタンドなどで適正な処理を行ないましょう。